

## 令和2年度江差町総合計画等検証委員会における意見等のまとめ

令和2年12月29日 江差町まちづくり推進課

本年度開催の江差町総合計画等検証委員会において各委員からいただきましたご指摘、ご意見等について、下記のとおりまとめました。

町は、今後の事務執行にあたり、これらのご意見等に対し十分に留意すると共に、住民に理解され支持が得られるよう施策への反映を検討してまいります。

### 記

#### 1 第1回目検証委員会（令和2年11月30日開催）

- (1) 旧江光ビル跡地活用事業を早急に事業着手されたい。
- (2) 観光入込客数の的確な把握を行い、把握した結果に基づいて、効果的な施策展開に結び付けていく仕組みが必要ではないか。
- (3) 日常的に目に付くような、ヒバの有効活用を図られたい。
- (4) 蝦夷山海の地元消費を増加させるため、地元客も観光客も、町内のどの飲食店に行っても飲める状況をつくってもらいたい。
- (5) 上ノ国町との連携協定によって、体育施設の利用については一定の向上が図られたが、体育館については、上ノ国町団体の利用度が高いため、江差町の団体が自由に借りられる状況でない。そのような実態も踏まえて、江差町の総合体育館建設を検討されたい。
- (6) 町の郷土芸能の後継者育成・確保のため、子どものうちから慣れ親しむことが出来る環境をつくってもらいたい。
- (7) 実施計画の随所に「左に同じ」が見られる。出来る限り、目標感、目的感が伝わるよう発展的な工程とされたい。
- (8) 北部地域における農業基盤整備事業を、しっかりと成功させていただきたい。
- (9) 新型コロナ感染拡大の状況を踏まえて、適宜、総合計画の内容見直しを図るべきではないか。
- (10) ぷらっと江差商品の訴求力を一層高めるには、みらい機構の積極的な関わりが、効果的と思われる。
- (11) 地域おこし協力隊員の任務完了後の起業に対し、町の更なる支援を図られたい。
- (12) コロナ禍によって、これまで以上に、町民との関わり方、連携のあり方、協力の求め方を考えさせられた。
- (13) 町が取り組んでいる各種の施策が浸透し、理解が得られるよう、周知手法の検討も含めて、もっと町民に情報発信していくことが大切である。
- (14) 開陽丸広場に、以前のジャングルジムのような、子どもの想像力を育てる遊具を設置してほしい。
- (15) 町内におけるニシンの一次加工の体制構築が、ニシンの消費拡大のために、まずは必要な手立てではないか。
- (16) 住宅リフォームの事業継続について、どのように考えているのか。
- (17) 公共的に利用可能な駐車場を観光客へ案内するため、看板設置やWEB掲載を進めていくのはどうか。また、休業日に駐車場を開放できる民間企業の協力を求めるのはどうか。
- (18) 誇るべき江差の資源を、町内外に、もっと伝えていくことが重要である。

裏面に続きます。

- (19) 総合計画の重点施策を束ねている「総合戦略」を、みんなで推し進めていくという意識をきちんと持つことが、忘れてはいけないこと。
- (20) 大事なことは、データを集めること。ビッグデータ、REASASのデータのほか、民間企業が所有するデータの取り込みも肝心。情報は、あらゆる場面で、しつこいくらいに出した方がよい。また、域内の経済波及効果も、可能な範囲で調査し分析してみるべき。
- (21) 人口減少社会の進行に伴い、「圏域」という単位で行政が進められている部分があるが、圏域で行われるもの、単独の自治体で行われるものがそれぞれある中で、それら具体の施策で、コンセプトは何なのかということを、しっかりと考え、持つことが重要である。
- (22) 総合計画にはSDGsの考え方を取り入れており、多様性・包摂性という観点で、それらの力をどう使っていけるのか、今まで眠っている力はないのかを考えていく必要がある。
- (23) 「江差は、本物が似合うまち」である。日々の暮らしの中で、そこをとことん追求してもらいたい。その取り組みが、第6次総合計画の「まちの目指す姿」につながっていく。

## 2 第2回目検証委員会における意見等（令和2年12月18日開催）

- (1) 介護認定までに要する期間内において、介護用具を柔軟に貸し出し出来る仕組みをつくってもらいたい。
- (2) 空き家の適正管理のため、通知・通達による命令・指導等を引き続き適切に講じるとともに、商業ビルの適正管理も含めた対応を検討願いたい。
- (3) 空き家バンクの制度設計にあたっては、使いやすく、目的地としての江差がより魅力的に感じてもらえるよう、多様な主体を巻き込んで議論し、先進地の知見も取り込んだ中で検討願いたい。
- (4) 町の仕事は、可能な限り見える化資料を作成いただきたい。見える化資料は、本検証委員会における説明のほか各課所管の会議等で積極的に活用するとともに、町民にも周知されたい。
- (5) 見える化により数字化されたデータは、他の自治体等と比較し客観的かつ多角的な分析に努め、政策立案に反映していくことが大切である。
- (6) 「仕事」「医療」「教育」という観点で、伸ばしていける部分・不足している部分を見極め、状況に応じた人の呼び込み方を検討することも出来るのではないか。特に江差町は、小中学校の学力テストと体力テストの成績が檜山管内随一であり、検討できる分野かもしれない。
- (7) 町の施策が、適時かつ確実に伝わるよう広報機能を強化いただきたい。
- (8) 令和3年度の地域防災計画見直しにあたり、災害ボランティアセンターの開設・運営を含めた社会福祉協議会と町との連携方策を探っていききたい。
- (9) 江差高校の存続のため、江差を想う子「江差っ子」の一層の推進と、江差高校の魅力度アップを図っていただきたい。
- (10) 高齢者でも障がい者でも貧困家庭でも、誰もが未来を描ける、セーフティネットがある町であることが、「未来を紡いでいく」基盤として非常に重要である。
- (11) 「公園」という住民にとって大きな公共空間を、まちづくりにどう位置付けていくのか、情報共有も含めて改めて考えていく必要がある。
- (12) 町の施策の制度設計や計画作成の際には、町民が「自分たちごと」と思えるような議論の場・仕組みを整えていってもらいたい。

以上。